

令和5年度病害虫発生予察指導情報
 対象病害虫：ハスモンヨトウ・シロイチモジヨトウ（野菜）

令和5年9月1日
 鳥取県病害虫防除所

1 ハスモンヨトウ

(1) 発生状況

8月第5半旬現在、フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数は、大山町、北栄町ともに平年並である。

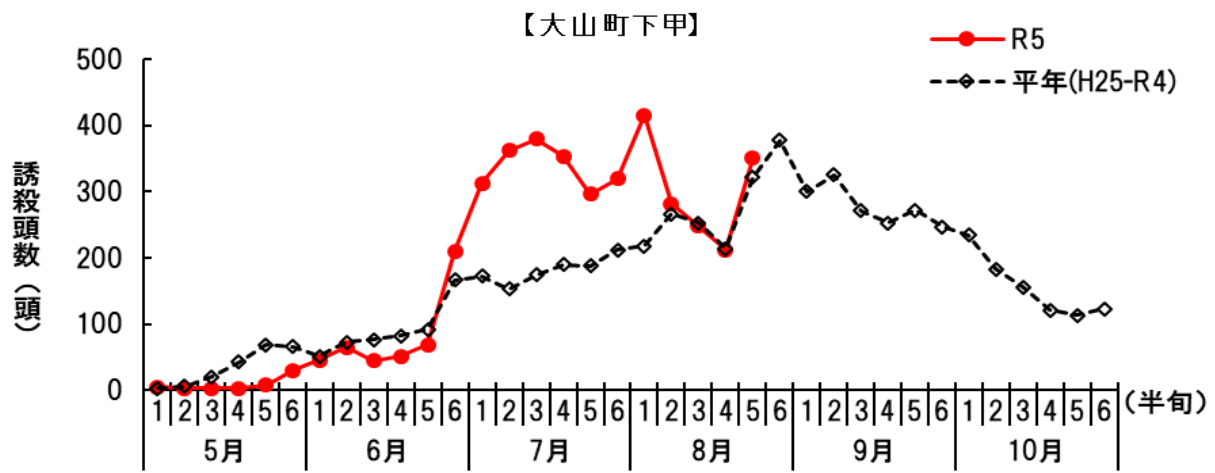


図1-1 フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数（調査地点：大山町下甲）

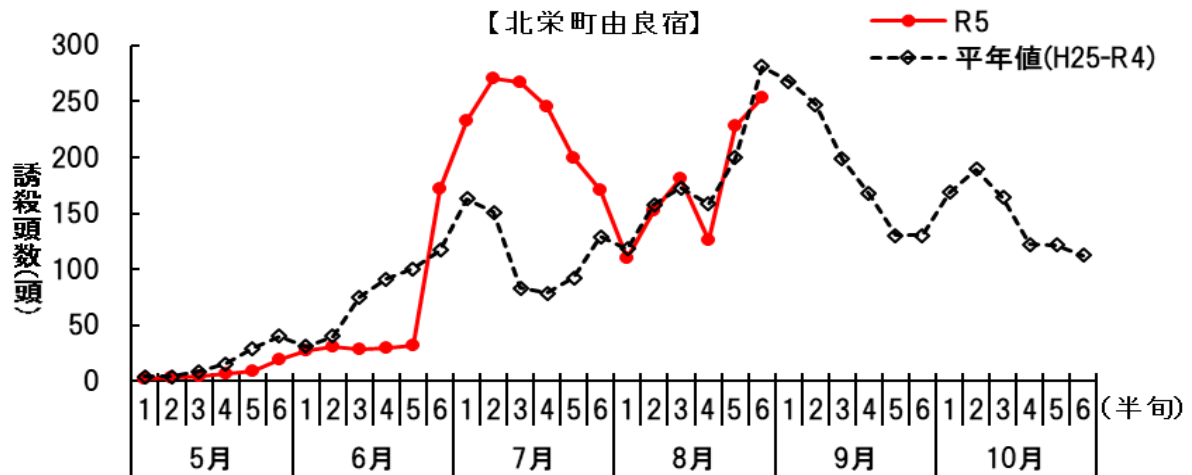


図1-2 フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数（調査地点：北栄町由良宿）

- (2) 8月30日の巡回調査の結果、県西部現地ブロッコリーほ場における発生量はやや多く、県中部現地ブロッコリーほ場における発生量は平年並である。
- (3) 誘殺数が増えているので、今後、次世代の産卵数および食害被害が増加することが懸念される。

2 シロイチモジヨトウ

(1) 発生状況

8月第5半旬現在、フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの誘殺数は、米子市、北栄町ともに平年並である。

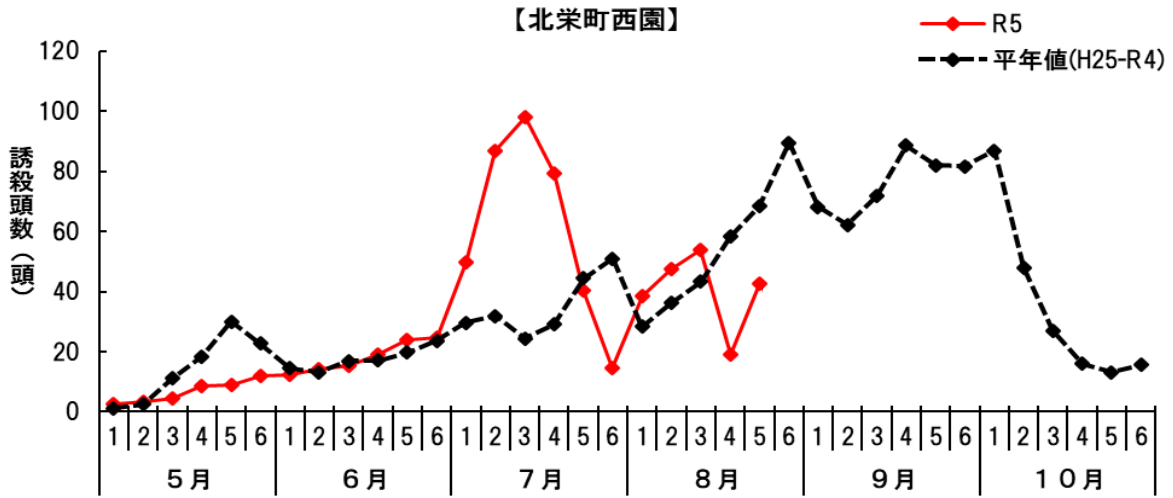


図2-1 フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの誘殺数(調査地点:北栄町西園)

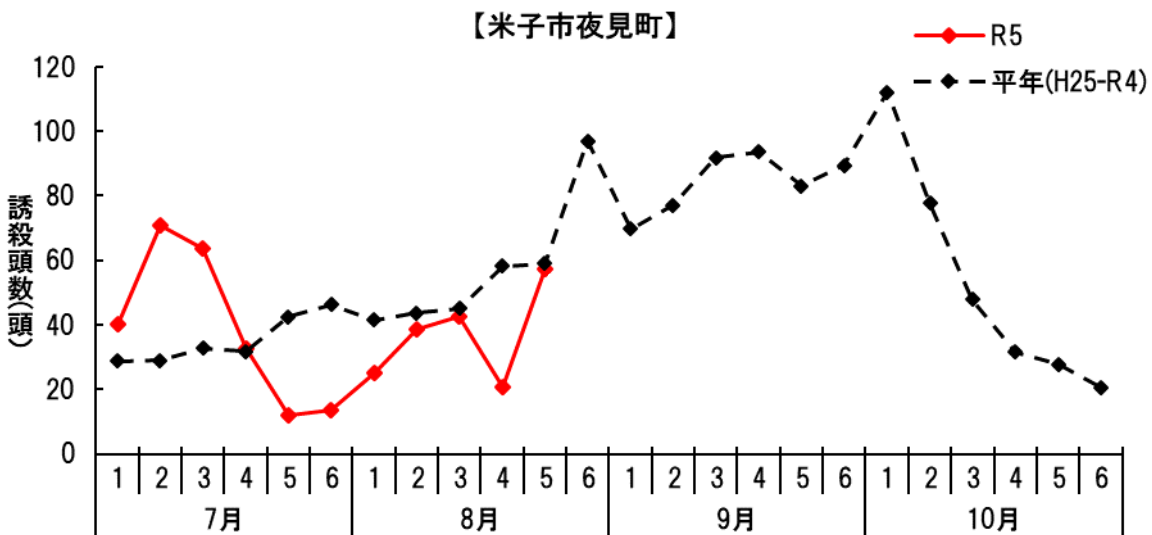


図2-2 フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの誘殺数(調査地点:米子市夜見町)

(2) 8月30日の巡回調査の結果、県西部現地ネギほ場におけるシロイチモジヨトウの発生量はやや多く、今後、被害が増加することが懸念される。

3 防除上注意すべき事項

(1) 野菜

ア 薬剤の感受性が高い若齢幼虫(体長1cm以下)のうちに防除を行う。食害痕がみられはじめる頃が防除適期である。

イ 食害痕は不整形の白斑となり、さらにかすり状に透けて見える。はじめ卵塊から孵化した幼虫は集団で産卵場所やその周辺にとどまり、葉の表皮を残して葉肉部を食害する。ほ場内を観察し、食害痕が目立つ株に注意する。

ウ 食害痕および若齢幼虫の発生が見られた場合には、病害虫防除指針等を参照し薬剤防除を行う。